

## 150万人のごみ減量プロジェクト

**減装(へらそう)ショッピング、神戸市全域へ拡大！！**

11月1日より、開始

特定非営利活動法人ごみじゃぱん(所在:兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1神戸大学内/代表:神戸大学大学院経済学研究科教授 石川雅紀)は、**低炭素社会実現のため、包装ごみの少ない商品を選ぶ買い物基準を普及させ、日本のごみを減量するプロジェクト「減装(へらそう)ショッピング」**を、神戸市内で2007年2月より実施してまいりました。昨年は東灘区、北区で3店舗の展開でしたが、**2011年11月1日より神戸市全域のダイエー直営の21店舗が加わり、減装ショッピングを拡大いたします。**つきましてはごみじゃぱんの活動をご取材、ご報道頂きたくご案内申し上げます。

### 【減装(へらそう)ショッピングについて】

ごみじゃぱんの学生達を中心となって企画・運営し、「ごみの発生抑制」を目的に“捨てる時”だけでなく“買う時”からごみの問題を考えるよう生活者に呼びかけています。同じカテゴリーの商品のなかで中身当りの容器包装重量が比較的軽い商品を「減装(へらそう)商品」として推奨しています。減装商品の中身当り容器包装重量の平均は、カテゴリー内全商品の平均の約半分(48%)です。生活者が推奨カテゴリー全体で「減装商品」を購入すると、重量で家庭ごみの約25%、体積で約60%を占める容器包装ごみが半分となり、重量12~13%、体積30%を減らせることが推計できます。



(R)

### 今回の多店舗展開のポイント

#### ○中間目標の達成

減装ショッピングの全国普及というゴールへ向けての中間目標の達成です。

#### ○150万人の減装ショッピング

神戸市内のほとんどの生活者が減装ショッピングに触れる機会をもつこととなります。

#### ○他地域展開へ向けて

今回の減装ショッピングの地域拡大と定着の過程で得られる生活者の反応から、他地域展開を目的としてノウハウの整理をします。

今回の神戸市全域への展開は、減装ショッピングの全国普及に向けた中間目標の達成です。これまで限られた地域で社会実験としておこなってきた減装ショッピングが多くの生活者に受け入れられ、生活者の要望に応じて実現しました。これにより神戸市内のほとんどの生活者が減装ショッピングに触れることとなります。これまではごみじゃぱんが直接関わる地域のみでの展開でしたが、これからは減装ショッピングへの理解の浅い地域、メンバーが直接関われない地域での展開となります。減装ショッピングがどのように受け入れられ、生活者の行動が変化するかわかり、神戸市内全域での減装ショッピングの定着と、生活者の理解の深化のための具体的、効率的な方策を見出すこと、さらには他地域での展開を視野に入れたノウハウの整理、パッケージ化が課題となります。

なお、今回の地域拡大では、店舗でのPOP管理の負担を軽減するため、店舗における推奨カテゴリーを当面1カテゴリーに限定して展開をします。

## ■取り組みの背景

日本の容器包装のリサイクルは着実に進み、平成 21 年度のリサイクル率は 20.5%に達し、埋め立て量は 10 年間で約半減しています。しかし、その処理のために多額の費用を使っている現状があります。また、日本の容器包装は、内容物の保護以上に目立つ包装が採用される傾向があります。

ごみじゃぱんは、2007 年、2008 年、2009～2010 年の実験を通じて、生活者が商品選択の際にごみ問題やリサイクルの費用などに気がつけば、より簡易な包装を選択することを実証してきました。

## ■これまでの活動経過

2007 年からの実証実験を受けて行った「減装ショッピング 2009-2010」（2009 年 11 月 13 日～2010 年 11 月 14 日）では、全国普及を目的とした基準作りと実施ノウハウ蓄積に取り組んできました。

日常的に購買されていると思われる商品カテゴリー（生鮮を除く食品・トイレタリーなど）ごとに、協力店舗全商品の容器包装を独自に計測し（計測詳細は下記参照）、内容量単位あたりの容器包装が軽量化されているトップグループの商品を「減装商品」として推奨。売り場で POP などの目印をつけることにより、生活者が「減装商品」を自ら選択する購買スタイルを定着させるための活動を行ってきました。

また 2011 年度では「減装ショッピング 2011」を実施し、学生達を中心となって、協働企業や生活者と連携しながら、PR イベント・子供達への啓発活動「減装学校」（下記参照）、生活者との対話と定性調査「減装カフェ」（下記参照）を行って参りました。

### 「減装（へらそう）ショッピング 2009-2010」

■期間 2009 年 11 月 13 日～2010 年 11 月 14 日

■協力店舗 イオンリテール株式会社…ジャスコつくしが丘店（神戸市北区筑紫が丘 3-2-10）  
生活協同組合コープこうべ…コープこうべシーア（神戸市東灘区住吉本町 1-2-1）  
株式会社ダイエー…ダイエー甲南店（神戸市東灘区本山南町 8-7-18）（50 音順）

■内容 容器包装が軽量化されている商品を「減装商品」として推奨することで、無理なくごみを減らす運動「減装ショッピング」を全国に普及させる最終目標に向かい、流通・メーカー・生活者・NPO が役割を分担しつつ、連携して基準作りと店舗運営マニュアル作成・ノウハウ蓄積などを通じて、新しい買い物基準を社会全体のスタンダードにするための課題抽出と、解決に取り組みました。

■実施結果 キャンペーンの効果として、実験終了時に POP がきちんとついている商品は売り上げが伸びている傾向がみられました。実験期間、店舗、推奨商品群等で 36 に分類し、その内 7 分類で統計的に有意に売り上げが伸びていました。負の影響はみられず、売上の増加率は食品で 4.8～12%、生活雑貨で 22～33%でした。

この結果、下記の課題と機会を検証することができました。

#### ①「減装商品」(ごみの少ない商品)の選定での課題

食品・トイレタリー約 3500 商品の容器包装を測定、1146 商品を推奨しましたが、新商品・季節商品などへのメンテナンス負荷が課題でした。

#### ②「減装商品」を選んでもらえる店舗づくりでの課題

店頭での棚替えやセールサイクルへの即時対応、POP ずれや欠落などのメンテナンスの負荷が課題になりました。

③生活者との連携での機会→店頭キャンペーンやモニター調査などを通じ延べ 5800 人の神戸市民と接触。多くの生活者に共感・賛同と応援の好反響をいただきました。

## 「減装（へらそう）ショッピング 2011」

- 期間 2011年4月から引き続き年間を通じた日常的活動とする
- 目標 無理なくごみを減らす運動「減装ショッピング」を全国に普及させるための新たな中期計画の初年度として位置付けます。現在「減装ショッピング」に賛同いただいている神戸生活者の動きをより拡大し、神戸発の新しいムーブメントとして関西・全国へ発信していきます。
- 活動内容 年間を通じ、学生達を中心となって、協働企業や生活者と連携しながら、PRイベント・減装モニター・子供達への啓発活動などの企画・運営を通じ「減装ショッピング」の共感者の輪作りと、そうした生活者による「減装ショッピング」行動のうねりを、関西・全国へ発信する力の強化を目指します。
- 主な進展 本年7月より減装マークが商品（山崎製パン社）に印刷され、実験という形とはなりますが全国の生活者が減装ショッピングに触れられるようになりました。現在では1商品のみですが、今後拡大を見込んでおります。

### 生活者との連携

#### 1)「減装カフェ」を定期開催。市民の主婦の皆さんと一緒に、容器包装、ごみを通じて暮らしを考えなおす。

神戸大学にて、「減装カフェ」を定期開催しております。地域の主婦の方たちやメーカーの皆さんにも参加していただき、容器包装ごみや、日々の暮らしと環境の問題について意見交換をします。

現在4月から5回実施7月の減装カフェには山崎製パン株式会社にも参加頂きました。生活者の方々から共感、多種多様なご意見を頂いております。



#### 2)「減装学校」では、小学校や児童館などへNPOごみじゃぱんの学生達が出張講義。

神戸市灘区の児童館を中心に実施、何気なく普段食べているお菓子を通じて子どもたちとごみ問題に関心を持てるゲームなどを行いました。

また小学生だけでなく中学生向けの授業も予定しており11月7、14日には灘中学校の家庭科の授業にてごみじゃぱん学生が講義を行います。

実際の重量測定など、ごみ問題を肌で感じられるもの内容となっています。

興味、関心がお有りの方はこちらもぜひご取材下さい。別途ご案内させていただきます。



#### 3) その他イベントを開催、生活者に容器包装を考えて頂く。

神戸総合運動公園でのグリーンフェスタこうべ2011  
伊丹リサイクルフェスタ（10/29 予定）  
などに参加いたしました。

## 「減装商品」の選定

### ■「減装商品」の推奨方法

- 1) 小売店で販売されている商品から、食品（生鮮除く）・トイレタリー・文具を、使用頻度・用途・形状・調理法・活用シーンなどを考慮したカテゴリーに分類。
- 2) 容器包装の重量測定を行い、表示の内容量から「内容量1gあたりの容器包装量」を算出。  
内容量1gあたりの容器包装量＝容器包装の質量（g）／内容量（g）  
（※商品カテゴリーによっては「1食あたり」「1回分あたり」等の単位で算出）
- 3) カテゴリーごとに、「減装商品」を決定。

#### **「減装商品」＝中身あたりの容器や包装が少ない商品**

- 4) 売り場の「減装商品」に推奨POPなど目印をつけて購入を促します。
- 5) 店頭ではポスターなど様々なコミュニケーションツールを用いて、生活者に、容器包装が少ない＝ごみの発生抑制ができる「減装商品」の情報を伝えていきます。

今年度はカップ麺、ペットボトル飲料の重量測定を行いました。

トレイ  
包装を  
分解し  
る商品  
です。

### ■今後の店舗における減装商品の展開

今回の実施店舗拡大に合わせ、店舗側のメンテナンス負担を軽減するため、店舗で展開する推奨カテゴリーを当面1つに限定します。

#### **特定非営利活動法人ごみじゃぱん**

- 【設立】 2006年9月25日  
【代表】 石川雅紀（神戸大学大学院経済学研究科 教授）  
【事務局】 ・所在地 神戸市灘区六甲台町 2-1 神戸大学内第2研究室 107号  
TEL:078-803-3005 FAX:078-803-3006  
・事務局長 小島理沙

#### 【発足の経緯と活動内容】

2005年10月、ごみゼロパートナーシップ会議がまとめた「簡易包装普及のためのシステム検討委員会平成15年度報告書」で立てられた仮説「ごみ問題を知り、インセンティブが与えられれば、生活者（消費者）の消費行動が変わる＝ごみが少ない商品選択を行う」を実証すべく、有志が集まりNPO法人設立を決定。日本包装学会会長であり、長年に渡ってごみと環境の研究を重ねてきた神戸大学大学院経済学研究科教授・石川雅紀を代表に、社会人及び神戸大学の学生が中心となって発足しました。

発足以降、産官学民の連携で無理なくごみを減らせる社会作りを目指すNPO団体として、社会全体でごみの発生を抑制し、発生したごみは出来るだけ適切に処理していく活動を企画・展開しています。消費者、事業者、教育研究機関及び行政と連携して、簡易包装の普及、ごみの分別とリサイクルの向上、新たなリユースチャンネルの開発及びごみを少なくするための商品の製造・販売等に関わる社会実験を実施し、そこから得られた知見を基に、ごみ問題の抜本的な解決に資する社会的仕組みづくり及び自然環境と調和した都市づくりに寄与しています。

《本件に関するお問い合わせ先》

特定非営利活動法人ごみじゃぱん事務局

TEL:078-803-3005 FAX:078-803-3006

ホームページ <http://gomi-jp.com>